

公表

事業所における自己評価総括表 放ディ

○事業所名	こども発達支援ルームぶらすup 金山ルーム			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 9日 ~ 令和7年 1月 23日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日 ~ 令和7年 1月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達やニーズに応じた個別・小集団での療育支援や機能訓練を行なっていること。	子どもの発達状況や年齢に合わせたグループをつくり、集団療育では社会性やコミュニケーションスキルを身につけるプログラムを提供している。また個別では将来の自立や将来の「はたらく」に向けて、より自立度の高く、就労に特化したプログラムに取り組んでいる。機能訓練では運動機能の改善や言語発達能力の向上を促し日常生活をサポートする。	就労系施設への見学等を行い、将来の「はたらく」に向けて、さらにプログラムを充実し、幅広い職種に対応できるスキルを身につけられるよう検討していく。機能訓練、個別・集団療育が連携して、よりよい支援を提供できるように情報交換やミーティングを密に行い支援の質の維持向上に努める。
2	理学療法士・言語聴覚士等、専門性の高い職員を常勤で配置していること。	子どもの疾患や特性に合わせて、より専門性の高い視点で問題点をピックアップし、原因を把握し解決手段を検討する。子どもや保護者のニーズに合わせて有効性を確認しプログラムを遂行する。	アセスメントによる結果から、子どもの得意・不得意は何か、どこに困り感を抱えているのか職員全員が共通理解を持てるよう研修やOJT等を通して研鑽を積む。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	設備・環境面	建物の構造上、完全なバリアフリー化が難しく、玄関に手すり等は設置されているものの、障がいの特性によっては、部屋の移動に不便さがある。利用児童の成長や特性に合わせて設備等を見直す必要が出てきている。	子どもの特性に応じた、雑多な掲示物など視覚的情報を減らしルールの視覚化や学習ルームの音の混在を防止するなど合理的配慮を行う。
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定されており訓練も行っているが、保護者へ情報が伝わりにくい。	常時の掲示や契約時等に説明を行っているが、定期的に発信していないため、保護者へ必要な時に、迅速かつ適切な情報の発信ができていないと感じている。	面談等で個別に説明を行っていく。連絡事項等の情報をシステム（HUG）の活動記録やメール配信を利用し、より分かりやすく、伝わりやすい方法を検討していく。
3			